

質疑

議案の疑問点について、4名の議員が聞きました。

特別定額給付金 給付事業

Q 大前議員 給付金ではなく、商品券などによる経済対策として対応できなかったのか。

A 産業文化部長 市長が対話した市民の多くが現金給付を望んでいた。コロナ禍での配布や印刷等に要する期間、換金手数料等の事務経費など総合的に判断し、現金給付に至った。

Q 内田議員 一律現金給付の成果を検証する方法は。産業文化部長 丸亀商工会議所や飯饅商工会とも連携し、事業の実施後、会員事業所のうち、飲食店など小売店を中心に調査をお願いする予定である。

また、有識者から意見をいただき、検証したい。

Q 中谷議員 財源として、一般会計の基金を検討したのか。

A 総務部長 一般会計基金からの繰り入れも検討したが、活用は難しい。約166億円の残高のうち、150億円は特定目的基金であり、財政調整基金は16億円である。

今後の財政運営やコロナ感染症の収束が見えない中、基金は将来の財源として留保する必要があり、給付金の財源にはしていない。

城東小学校の改築

Q 横川議員 城東小学校は、過去に浸水被害に遭っている。改築に当たり、建設場所の検討は。

A 教育部長 県では、浸水被害対策として、古子川の越水に対するかさ上げ工事を実施している。

地元コミュニティや学校関係者、専門家と検証を行い、議論を重ねたい。建設場所をはじめ、校舎の配置、設備など、合意形成を図りながら、地域に愛される学校となるよう努めたい。

永年勤続8名に表彰状を伝達

第83回四国市議会議長会定期総会において、表彰規定に基づき、8名の議員が表彰状を授与されることとなりましたので、今期定例会で表彰状を伝達し、その功績をたたえました。

▼四国市議会議長会

議員在職16年
三宅 真弓
多田 光廣

議員在職12年
加藤 正員

議員在職8年
神田 泰孝
水本 徹雄
岡田 剛
川田 匡文
真鍋 順穂



市民会館整備特別委員会を設置

◎内田 俊英 ○横川 重行
東 由美 香川 勝
川田 守家 英明
川田 匡文
◎委員長 ○副委員長
多田 中谷真裕美
光廣

一般質問

16人の議員が市の考えを問う

質問者・項目 太字の項目は本文中に要約文を掲載

廣田 勝也

- ①緊急通報装置②カーブミラー③垂水橋

大西 浩

- ①市長の選挙公約②新型コロナウイルス感染症対策

山本 直久

- ①財政・行政改革②ワクチン接種③事業者支援④中心市街地⑤総合運動公園

横川 重行

- ①市長の選挙公約②農業

竹田 英司

- ①奨学金制度②敬老事業③ため池の安全

武田 孝三

- ①地域公共交通と移動者支援②市道・農道③大手町4街区の再編整備

香川 勝

- ①農業経営支援②DXデジタルトランスフォーメーション③高校総体と総合文化祭

渡邊 一馬

- ①介護職場②学校給食の有機無農薬化③市長の選挙公約

内田 俊英

- ①職員改革②マルタス③犬猫・ペット④ごみの不法投棄、ため池⑤手話言語条例、コミュニケーション条例

守家 英明

- ①市長の選挙公約②自治会への加入促進③生涯学習

三宅 真弓

- ①コロナ緊急経済対策②ゼロカーボンシティ宣言

角野 仁美

- ①子育て支援②健康づくり③自動体温計の設置④市長の選挙公約

中谷真裕美

- ①市長の政治姿勢②ワクチン接種とPCR検査③医療費の無料化

東 由美

- ①コロナ支援策②再婚家庭の子育て支援③離島施策④広域行政

神田 泰孝

- ①ワクチン接種②児童虐待防止③新庁舎④6次産業・農水産業

水本 徹雄

- ①マルタス②まちかど救急ステーション③金倉南北線④ヤングケアラー⑤近隣自治体との交通アクセス⑥市長の選挙公約

一般質問

垂水橋 通行の安全を



廣田勝也議員



歩道や自転車道はなく

垂水橋は土器川に架かる20本の橋で、唯一、歩道・自転車道が整備されておらず、利用者は常に危険を感じている。架け替えまでの当面の措置として、車道と分離するなど、歩行者や自転車通行者の安全を確保すべきだが、その安全対策は。



A **市長** 垂水橋の幅員と通行量からすると、安全上、歩行者や自転車通行者と車の分離が望ましく、必要である。白線での分離など、可能な安全対策を講じるよう県に要望したい。

また、こうした現状や劣化状況、防災上の観点から、今後、抜本的な改修が必要であると認識している。地元コミュニティの意向も踏まえ、早期の事業化に向け、機会あるごとに県に強く要望していきたい。

選挙公約 市長の認識は



大西 浩 議員

市長は、全市民に10万円支給を選挙公約としたが、選挙後の額の変更は、投票した人の信頼を裏切り、不誠実ではないか。選挙公約に対する認識は。



新市政 これからの丸亀は

A 市長 選挙公約とは、市民との大切な約束であり、誠心誠意その実行に向けて尽くさなければならぬ。しかし、現在、本市は新型コロナウイルスや変異株の猛威にさらされ、市民のワクチン接種を早急かつ確実に実施しなければならぬ状況に直面している。コロナ禍の長期化や深刻化

の懸念が高まる中、コロナと闘い、市民の安心につなげていくの財政に禍根を残さない、現時点で考えられる最大限の額として5万円給付の提案に至った。これから進めていく市政の中で、市民の理解や信頼を得られるよう、今後できる限り努力していきたい。

中心市街地 活性化への施策は



山本直久 議員

本市の中心市街地では、市道丸亀駅前田線の幅員再配分無電柱化や、富屋町のこんぴら街道を絡めた整備事業など、インフラ整備が進められている。また、空き店舗・空きオフィス等についても、活用促進補助事業により開業者も増加しているが、活性化への課題は多い。今後、どのように進めていくのか。



まちにゆとりと賑わいを

A 市長 中心市街地では、地区都市再生整備計画に基づくハード整備や商店街でのソフト事業により、少し明るい兆しも見えるが、大手町4街区の賑わいづくりを周辺にも波及させ、地区全体の魅力向上につなげなければならない。そのため、民間の力が十分に発揮される環境づくりが重

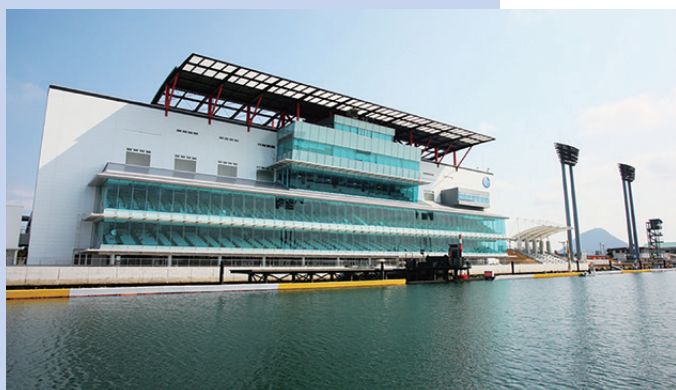
要であり、民間企業や大学などとも連携し、中心市街地の活性化に取り組みたい。また、国が進める「まちなかウォーカーブル推進事業」を活用し、まちなかにゆとりと賑わいを創出するまちづくりなど、新たな取り組みも模索していきたい。

ボートレース事業 繰出金の基準は

Q



横川重行議員



事業会計からの繰出金 ルールは?

市長の選挙公約では、全市民への一律現金給付によるコロナ緊急経済対策として、ボートレース事業の余剰金を財源とされている。一般会計へボートレース事業会計から繰り出す際の基準は。



A

**モーターボート競走事業
管理者** ボートレースま

るがめでは、収益を確保し、市の財政に安定的に繰り出すことにより、公共の福祉に寄与することを念頭に事業を行っている。昭和27年の初開催から令和2年度までの68年間で、約1377億円を一般会計へ繰り出し

ており、公共施設の整備をはじめ、様々な事業の財源の一部として活用されている。

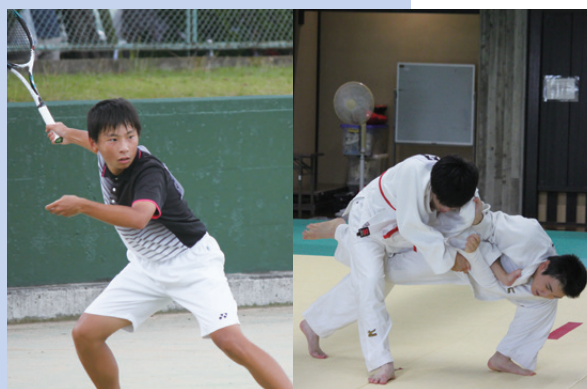
今後については、決算状況や収益見込みに加え、運転資金や競技用施設、お客様空間の整備事業など、将来にわたる経営状況を踏まえながら行いたい。

学びを支え 共に成長を

Q



竹田英司議員



のびのびと学び過ごせる環境が

昨年、新型コロナウイルス感染症の影響により、大学などを中途退学した学生1367人、休学者4434人との調査結果がある。学ぶ意欲のある若者を支援するため、市独自の奨学金制度を導入してはどうか。地元企業PR事業などと併せて、担当部課を超えた取り組みが求められるが、いかがか。



A

教育部長 近年、国や県では、奨学金・支援金制度が充実してきている。高校生

を対象とした返還不要の授業料支援や高校生等奨学給付金制度、住民税非課税世帯等の大学生を対象とした授業料や入学金の免除・減額に加え、給付型奨学金なども整備されている。

市内の中学校では、高校入学前の周知に努め、制度を活用しやすい環境づくりに力を入れていきたい。

A

市長 複雑多様な行政課題には、今後とも全庁体制で、部課を超えての連携した

取り組みを進めていきたい。